

県立広島病院版 看護師のクリニカルラダー

看護の核となる実践能力:看護師が論理的な思考と正確な看護技術を基盤に、ケアの受け手のニーズに応じた看護を臨地で実践する能力

定義	レベル		I	II	III	IV	V
	レベル毎の定義		基本的な看護手順に従い必要に応じ 助言を得て 看護を実践する	標準的な看護計画に基づき 自立して 看護を実践する	ケアの受け手に合う 個別的な 看護を実践する	幅広い視野で 予測的 判断をもち看護を実践する	ケアの受け手にとって最適な手段を選択し より複雑な状況において、QOLを高めるための 看護を実践する
看護の核となる実践能力	ニーズをとらえる力	【レベル毎の目標】	助言を得てケアの受け手や状況(場)のニーズをとらえる	ケアの受け手や状況(場)のニーズを自らとらえる	ケアの受け手や状況(場)の特性をふまえた ニーズをとらえる	ケアの受け手や状況(場)を統合しニーズをとらえる	ケアの受け手や状況(場)の関連や意味をふまえ ニーズをとらえる
		【行動目標】	<ul style="list-style-type: none"> ■助言を得ながら、患者に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる。 ■生命の危機に関わる緊急性のある異常を発見できる。 ■患者の状況から緊急度をとらえることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■自立して、ケアの患者に必要な身体的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる。身体的側面については、自立して、患者の状態に合わせてフィジカルアセスメントを行える。 ■自立して患者と関わり、潜在化している身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面を関連づけて患者の課題をとらえることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■個別性をふまえ、患者に必要な身体的・精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報を収集できる。 ■正確なフィジカルアセスメントができ体内で起こっている現象を考慮することができる。 ■身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面のあらゆる情報から総合的に患者をとらえ優先度の高いニーズをとらえることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■患者の疾患の予後や退院後の生活等の予測的な状況判断のもと、身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる。 ■正確なフィジカルアセスメントだけでなく、意図的に収集した情報を統合し、ニーズをとらえることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■複雑な状況を把握し、患者をとりまく多様な状況やニーズをとらえ、必要ケアを判断できる。 ■疾患の予後と治療による影響や退院後の生活を予測した上で、患者を取り巻く情報の重要性を理解し、患者・家族(または家族を取り巻く人々)の価値観とすり合わせて、多角的側面からニーズをとらえることができる。
	ケアする力	【レベル毎の目標】	助言を得ながら、安全な看護を実践する	ケアの受け手や状況(場)に応じた看護を実践する	ケアの受け手や状況(場)の特性をふまえた 看護を実践する	様々な技術を選択・応用し看護を実践する	患者の知見を取り入れた創造的な看護を実践する
		【行動目標】	<ul style="list-style-type: none"> ■一般的な入院患者の看護計画が一人で立案できる。 ■助言を得ながら、看護手順やクリニカルパスに沿ったケアが実施できる。 ■基本的看護技術については、新人看護研修職員ガイドラインにおける、看護技術の、到達目標が達成できる。 ■急変時には、指導を受けながら、ケアを責任をもって実践できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■患者の個性性を考慮しつつ、標準的な看護計画を追加・修正し、自立してケアを展開できる。 ■患者の状況に応じた援助を、安全安楽を配慮し実践できる。 ■急変時には、自主的にケアを責任をもって実践できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■患者の個性性を考慮しつつ、希望を考慮した個別的な計画が立案でき、適切なケアが実践できる。 ■患者のニーズを的確にとらえ、複数の患者をうけつ中で、優先順位を正しく判断し、ケアを実践できる。 ■急変時は、看護チームのリーダー役割が果たせ、落ちついて対応でき、家族(または家族を取り巻く人々)にも配慮ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■患者の顕在的・潜在的なニーズに応えるために、幅広い選択肢からの提案や適切なケアの実践ができる。 ■予測的な視野を持ちながら、患者の反応に応じて段階的に説明し、指導ができる。 ■急変時には、原因や今後の展望を予測しながら、患者および家族(または家族を取り巻く人々)への対応と今後への準備ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■患者の疾患の予後と治療による影響により、患者の希望に沿った生活が困難な状況であっても、患者の希望や価値観、尊厳を尊重し、新たな生活の可能性を広げるケアができる。 ■複雑な疾患の患者においても原因や今後の展望を予測しながら、患者および家族(または家族を取り巻く人々)へ支援的対応と今後への準備ができる。 ■専門性における根拠を追究し、幅広い視点から最適な看護を選択できる。
	協働する力	【レベル毎の目標】	関係者と情報共有ができる	看護の展開に必要な関係者を特定し 情報交換ができる	ケアの受け手やその関係者や多職種と 連携ができる	ケアの受け手を取り巻く多職種の力を調整し 連携できる	ケアの受け手の複雑なニーズに対応できるように 多職種の力を引き出し連携を活かす
		【行動目標】	<ul style="list-style-type: none"> ■常に自らのもつ情報を他の看護師に報告し、連絡・相談ができる。 ■助言を受けながらチームの一員として役割を理解することができる ■看護に必要な情報を助言をうけながら記録し、関係者と情報共有できる。 ■カンファレンスに参加し、発言することで、情報提供し関係者と共有できる。 ■退院支援についての仕組みや基礎的知識を身に付けて、指導のもと情報収集が行える。 	<ul style="list-style-type: none"> ■患者に関わる多職種の役割を理解し、必要に応じて多職種と情報交換ができる。 ■夜勤を含めた、看護チームのリーダー的役割がとれる。 ■カンファレンスに参加し、積極的に発言し、患者の思いや希望を代弁できる。 ■退院支援についての基礎的知識を生かし看護師間で協力しながら、課題をとらえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ケアの受け手の個別的なニーズに対応するために、その関係者と協力し合いながら、多職種連携を進めていくことができる。 ■患者や家族(または家族を取り巻く人々)とケアについて意見交換ができ、必要時カンファレンスを開催し、治療に協力を求めるために、患者・家族(または家族を取り巻く人々)に参加を求められることができる。 ■退院支援について、自施設の役割を理解し、患者のニーズに対応するために、その関係者と協力し合いながら多職種連携を進めていくことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■各職種が役割を効果的に発揮でき、患者に関わることができるよう、多職種連携を促進する。 ■患者の起こりうる課題を予測し、専門・認定看護師などのスペシャリストの関わりを提案し調整する。 ■退院支援について診療報酬や社会制度を理解した上で、患者がおかれている状況(場)を広くとらえ、結果を予測しながら多職種連携の必要性を見極め、主体的に多職種と協力し合うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■問題の本質を的確に判断し、最善のサービスをチーム全体で円滑に実践できるよう、自律的な判断をし関係者に積極的に働きかける。 ■患者および家族(または家族を取り巻く人々)のQOL向上を考えたケアが提供できるよう多職種の能力を引き出し連携できよう調整できる。 ■多職種との連携において、病院内だけでなく、病院外との複雑な調整ができる。
	意思決定を支える力	【レベル毎の目標】	ケアの受け手や周囲の人々の意向を知る	ケアの受け手や周囲の人々の意向を 看護を活かすことができる	ケアの受け手や周囲の人々の意思決定に必要な 情報提供や場の設定ができる	ケアの受け手や周囲の人々の意思決定に伴う ゆらぎを共有でき選択を尊重できる	複雑な意思決定プロセスにおいて 多職種も含めた調整的役割を担うことができる
		【行動目標】	<ul style="list-style-type: none"> ■患者や家族(または家族を取り巻く人々)の思いや希望をきき、情報提供できる。 ■助言を受けながらケアの受け手からの依頼や質問に誠実に対応できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■患者や家族(または家族を取り巻く人々)の思いや希望を意図的に聞き、その背景や理由についても確認できる。 ■患者や家族(または家族を取り巻く人々)の思いや希望を、適切に計画やケアに反映できる。 ■説明に対する患者や家族(または家族を取り巻く人々)の認識のずれに気づき、追加説明などのケアの提供ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■患者や家族(または家族を取り巻く人々)の意思決定に必要な情報(療養の場・治療・検査などの選択肢)を説明でき、情報提案ができるなど、意思決定を支える。 ■患者や家族(または家族を取り巻く人々)の意向が異なる場合、違いの原因をとらえ、両者の思いを理解し多職種に代弁できる。 ■患者と家族(または家族を取り巻く人々)がそれぞれ個人の中に持つ複雑な思いや気持ち、価値観に寄り添うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■患者や家族(または家族を取り巻く人々)の気持ちを引き出し、自ら決定し、考えたりできるよう、意思決定プロセスを促進できる。 ■患者や家族(または家族を取り巻く人々)の意向が異なる場合、違いの原因をとらえ、カンファレンスを開催し調整できる。 ■複雑な意思決定場面において、患者と家族(または家族を取り巻く人々)のゆらぎを共有でき、寄り添い続けることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■患者と家族(または家族を取り巻く人々)が自ら考え決定できるように積極的に踏み込んで関わり、意図的に医療チームを動かし、意思決定プロセスを支援できる。 ■患者と家族(または家族を取り巻く人々)の変化する思いを受け止め、尊重し寄り添い続けることができる。 ■複雑な意思決定場面において、患者の尊厳を尊重した意思決定のために、適切な資源・人材を積極的に活用し調整できる。